

CMA+PBダブル資格者に聞く、 プライベートバンカー資格

超高齢化社会に突入した日本では、相続や事業承継といった課題に直面する富裕層・企業オーナーも多く、このような課題に取り組むプライベートバンカーの存在は、近年欠かせないものとなっています。

事業全体の流れをつかみ、その分析やビジョンの立て方、差別化の方法、上場企業の財務諸表からリスクを読み取る識別眼、アナリストレポートで駆使される会社の意図を投資家に伝えるための表現方法など、証券アナリスト的観点や経験は、企業オーナーへのコンサルティングはもちろん、あらゆる分野で生きるスキルです。

CMAでありかつPB資格を取得された会員の皆様にご登場いただき、受験の経緯やダブル資格の活用、また受験した感想等について、お話を伺います。

1. CMA受験のきっかけ

何の知識もない自分に忸怩たる思いで、CMAを取得

硬式庭球部時代の大学の先輩がリクルーターだった関係で、現在の証券会社に入社しました。松本支店でリテール営業を経験後、2店目の沼津支店では、他社幹事のため支店内で誰もアプローチしていなかったとある上場企業に、果敢にチャレンジしました。オーナーには可愛がってもらいましたが、ファイナンスなど基本的な知識も持ち合わせていない自分では、いざビジネスの話になると満足な提案もできず、本部に同伴外交の応援を頼み横で聞いているくらいが関の山で、忸怩たる思いでした。

入社当時、研修部からはCMA一次レベルを入社後3年間のうちに取得するよう指示はありましたが、自分はこのガッツと愛されキャラで十分、と無視し続けていました。しかし、いざ現場で目線の高い法人顧客と相対することになって初めて、自分の未熟さが身に染みました。

自分もそうですが必要に迫られないと、なかなか勉強というものには取り組めないものです。その意味で、若いうちに難度の高い顧客にチャレンジしておいたことで、知識・スキル啓発の必要性に気づくことができ良かったと思います。

CMAで培った知識でその後の提案の幅も広がり、結果的に他社幹事だったアンタッチャブル先の法人を数社、自分の顧客とすることができました。

2. 5つの資格は、業務のため

CMA、CIIA、CFP、FP1級を取得、広い視野での確かなアドバイスが可能に

その後大分支店に異動、上場間近の大口法人顧客を担当する一方でCMAの勉強も続け、二次レベルに合格しました。医療法人・学校法人・財団法人などを担当しながらCIIAも取得しました。一部上場企業の法人口座を担当する一方で、会長や社長の口座もあわせて担当していました。また同社の財務部や経理部からは、直接の業務とは関連はありませんが年金制度について相談された際に、ファイナンスの見地とその会社の人員予測からの確かなアドバイスができたことで、信頼を勝ち得ることができました。

社内にウェルスマネジメント部門ができることになり、異動を希望し、横浜支店と名古屋支店のウェルスマネジメント部で勤務し、富裕層個人顧客を担当することになりました。それまではほぼ法人担当だったためこれからはリテールの知識も必要かと思い、当時はまだPB資格もなかったのでCFP、FP1級を取得しました。

どうやって次々に資格を取得できたのか

税理士など外部の専門業者と同伴外交する際は、彼らにただ丸投げするのではなく、隣で彼らがどのように説



野村証券 所沢支店
ファイナンシャル・コンサルティング課
課長
荒賀 俊介 氏
シニアPB

.....

明するのかわかり聞いて理解に努めました。机上でただ知識を詰め込むだけでは容易に忘れてしまいますが、業務を行いながらのいわば実地研修として、仕事の中で意識的に覚えていった感じです。同様の方法で、シニアPBも2015年に取得しました。

資格取得は効率的な業務遂行のための、手段

CMAやPB資格で得た知識は業務に直結します。いかに限られた時間で効率的に営業活動を行い、結果に結び付けるかのための手段です。資格取得に多少時間は要しても、最終的にはその方が得であり、急がば回れです。できるだけ若いうちに取得しておくべきだと思います。

先方からの信頼にもつながりますし、難易度の高い顧客にも臆することなく提案できるようになります。また、部下や後輩がたまたま社長に会えたといった場合、次はこういったことをヒアリングしてはどうか、という的確なアドバイスにもつながります。

3. どうやって勉強するか

CMAで学習すべき順序

CMAの科目には勉強すべき順番があるかと思います。多くの方は比較的手掛けやすい経済から学習を始めるかもしれませんが、まず着手すべきは「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」で、次に「財務分析」、最後に「経済」だと思います。また一次レベルの内容だけではなく、二次レベルやCIIAのテキストを予め購入し、そこまで視野に入れて準備すべきです。

時間を細切れに割り振れば、富士山は高尾山になる

例えばCMA試験に合格するためには、一次レベルで300-600時間、二次レベルで300時間の学習時間が必要と言われていますが、1年間240日間の営業日には通勤等で30分間ずつ、120日間の土日祝日には2時間ずつとすれば、1年間で360時間の学習時間が確保できますので、計算上は2年間でCMAの取得も不可能ではないはずです。難しいと言われるCMAも、細切れに努力すれば、富士山に登るのではなく、高尾山くらいに考えることができます。

資格取得と仕事は別物に区切れるものではなく、目的は同じはずで、目線の高い難解な顧客とも建設的な話ができるようになります。自分の業務に直結していることを常に意識できれば、学習意欲を切らすことなく、続けられるのではないのでしょうか。

資格も取得すべき順序がある

シニアPBは実務に沿った有益な内容だと思います。まずはCMA一次を取得してファイナンスの基礎を体系的に取得したら次はPB資格を取得するのが、金融ビジネスを行っていく上では有意義と考えるのが、5資格を取得した自分の経験からの感想です。その上でCMA二次やCIIA、CFPにトライするという順番が理想的だと思います。

自分が証明に

自分の部下や周りの人たちの反応を見てみると、CMAやPB資格というごく一部の特定の人取得するマニアックなもの、というイメージを持たれている印象が強いです。特に営業店舗においては、これらの資格取得者はかなり少ないようです。

クライアントのために役に立ちたいと必死になって考え、多少時間は要しても資格取得によって知識やスキルを身に付けることが、ひいては自分のビジネスに返ってきます。資格取得は実務に必ず役に立つことを証明していきたいと思います。

そのためにも、自分自身が自分の関わる顧客、部下、同僚の適切な相談窓口として機能し続けていくことが、最大の証明につながるのでは、と考えています。

★「CMA+PBダブル資格者に聞く」バックナンバーは、下記URLからご覧になれます；

http://www.saa.or.jp/pb/for_enrollee/index.html